

II

2型糖尿病例における冠動脈硬化の進展に対する pioglitazone と glimepiride 効果 : PERISCOPE 無作為比較試験

Nissen SE, Nicholls SJ, Wolski K, et al: Comparison of pioglitazone vs glimepiride on progression of coronary atherosclerosis in patients with type 2 diabetes: the PERISCOPE randomized controlled trial. *JAMA* 2008; 299: 1561-73.

要約 : 2型糖尿病に対する治療で, glimepiride に比べて pioglitazone は冠動脈硬化進展防止効果が強い。

2型糖尿病で冠動脈疾患を有する 543 例に対して, 冠動脈内超音波 (IVUS) を実施後, pioglitazone 15~45mg (インスリン感受性改善薬) と glimepiride 1~4mg (スルフォニルウレア系, インスリン分泌刺激薬) を無作為に割り付け, その 18 ヶ月後に再度 IVUS を実施した。主要評価項目は, IVUS におけるプラーク体積 (PAV) の変化率である。glimepiride では PAV は 0.73% 増加したのに対し, pioglitazone では 0.16% 減少した。空腹時インスリン値は pioglitazone で減少し, glimepiride で増加した。HbA1C 値は, 共に減少したが, 減少度は pioglitazone で大きかった。

結論 : 2型糖尿病に対する治療で, glimepiride に比べて pioglitazone は冠動脈硬化進展防止効果が強い。糖尿病を有する冠動脈疾患での治療を検討する上で, 有用な情報と考えられる。

急性冠症候群に対するクロピドグレル治療中断後の死亡と急性心筋梗塞発症率

Ho PM, Peterson ED, Wang L, et al: Incidence of death and acute myocardial infarction associated with stopping clopidogrel after acute coronary syndrome. *JAMA* 2008; 299: 532-9.

要約 : クロピドグレルを中断後 90 日以内のイベント発生率が高く, 中断後のリバウンド現象が示唆される。今後の要因分析や対策が必要である。

急性冠症候群 (ACS) に対してクロピドグレルの使用が勧告されている。しかし, 継続時期についてはエビデンスがない。本研究では, 米国退役軍人病院 127 施設での 3,137 例を後ろ向きコホート研究として, 中断後の心事故発生率 (死亡と急性心筋梗塞発症) を検討した。1,568 例は PCI なしの薬物治療群で平均 302 日間使用し中止後平均 196 日間, 1,569 例は PCI 治療後で平均 278 日間使用し中止後 203 日間経過観察している。前者では, 17% に死亡あるいは急性心筋梗塞発症し, その 61% は中止後 90 日以内に生じていた。PCI 群では中止後 8% に死亡あるいは急性心筋梗塞発症し 59% は 90 日以内に発症していた。クロピドグレルは, PCI 適用の有無に拘らず, 中断後 90 日以内のイベント発生率が高く, 中断後のリバウンド現象が示唆される。今後の要因分析や対策が必要である。

我が国では, 不安定狭心症ステント治療後に使用され, 3~6 ヶ月間の使用が勧告されている。中止後の対応については勧告がないため, 中断後は注意深い観察が必要である。今後の無作為比較試験が必要であり, リバウンド現象の有無についても検討を要する。

高 CRP を呈する健常男女における血管イベントを抑制するロスバスタチンについて

Ridker PM, Danielson E, Fonseca FAH, et al: Rosuvastatin to prevent vascular events in men and women with elevated C-reactive protein. *New Engl J Med* 2008; 359: 2195-207.

要約 : 高脂血症を有さず, 高 CRP を呈する健常成人において, ロスバスタチンは主要な心血管イベントを明らかに抑制した。

JUPITER (the Justification for the Use of statins in Prevention: an Intervention Trial Evaluating Rosvastatin) 試験として, 26 ヶ国 1,315 施設で実施された大規模多施設無作為比較試験である。炎症マーカーである CRP は心血管イベントの予知物質として確立され, 高コレステロール薬であるスタチン系薬物は CRP を低下させることが明らかである。そこで, 本研究は, 高 CRP を有する正常 LDL の健常成人でスタチンが効果があることを実証する目